

【研究論文】

養成段階の教師教育における模擬授業指導についての一考察 ～小学校教員採用試験対策を中心に～

広島文教大学教育学部教育学科

教授 佐伯育郎

はじめに ～目的・動機

地方の小規模私立大学である広島文教大学における教員採用試験対策チャレンジセミナーの中で筆者が他の先生方とともに担当してきた模擬授業指導の実際について、養成段階における教師教育の視点から留意点と意義を示すものである。

拙稿では、教員採用試験対策チャレンジセミナーの中で筆者が担当してきた初歩的・基本的な面接指導について詳述し、教師教育の視点および大学教育の視点からその意義と課題とを既に示した¹⁾。

続く本稿では、本学の初等教育学科4年生を中心とした教員採用試験対策チャレンジセミナーの一環で行っている模擬授業指導に焦点を当てて言及する。特に、筆者が本学初等教育学科の学生たちを指導してきた中で、同僚とともに学んできた模擬授業指導の実際、とりわけ模擬授業における学生の小学校教師としての初歩的・基本的な指導技術、振る舞いのポイントを示して共有化し、今後の教員採用試験対策チャレンジセミナーを中心とした模擬授業指導に少しでも役立てることができればと考えている。筆者はこれまでも拙稿において模擬授業について度々言及してきたが、小学校教員採用試験対策における模擬授業指導に焦点を当てて考察したことはなかった²⁾。読者各位の忌憚のないご批評を賜りたい。

1 近年の教員採用試験における模擬授業

(1) 教員採用試験における模擬授業の現状

文部科学省のホームページでは、平成15年度（平成14年度実施）から令和2年度（令和元年度実施）までの公立学校教員採用選考試験の取組事例について公表している。平成30年度（平成29年度実施）から令和2年度（令和元年度実施）までを抽出し、小学校と中学校の実施状況を筆者なりに表にまとめ直すすと以下の通りである³⁾。多くの自治体が二次試験において模擬授業を実施していることがわかる。

区分	一次試験	二次試験	三次試験	一次試験	二次試験	三次試験
令和2年度 (令和元年度実施)	2	45	1	2	46	1
令和元年度 (平成30年度実施)	3	45	1	3	46	2
平成30年度 (平成29年度実施)	2	47	1	3	49	1
校種	小学校			中学校		

【表1：平成30年度（平成29年度実施）から令和2年度（令和元年度実施）までの公立学校教員採用選考試験における模擬授業の実施状況(単位：県市／68県市)】

(2) 本学の学生が受験した教員採用試験における模擬授業の現状

本学の所在地が広島県広島市であることもあり、地元出身者の学生も比較的多いため、広島県・広島市の教員採用試験を受ける学生の割合は高い。ここでは、広島県・広島市の教員採用試験を中心に模擬授業についての現状を述べる。

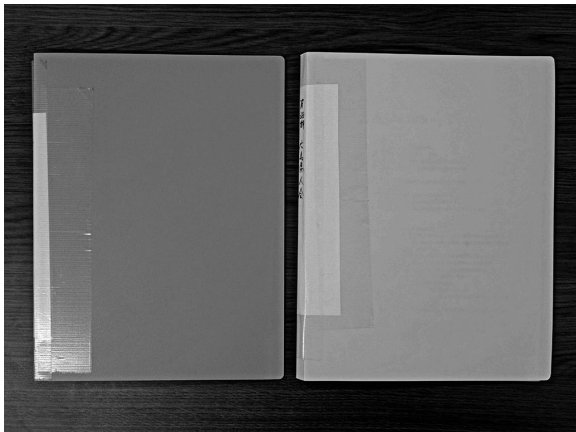
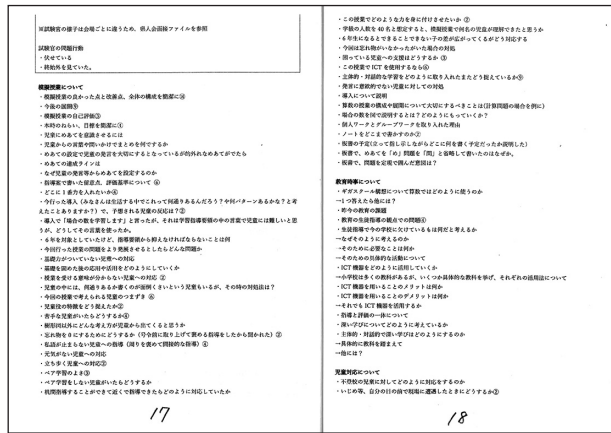
令和3年度（令和2年度実施）広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験では、初等教育学科37期生の教員採用試験受験者70人中39人（約56%）が受験した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、選考試験の日程および内容などが変更され、一次試験と二次試験を併せて実施された⁴⁾。面接試験は感染対策をした上で従来通り実施されたが、グループワークや模擬授業、実技試験などは実施が見送られた。

令和4年度（令和3年度実施）広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験では、初等教育学科38期生の教員採用試験受験者63人中36人（約57%）が受験した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実技試験が不実施の他、二次試験において模擬授業を廃止し、個人面接の回数を1回に減らした上で新たに模擬授業面接が行われた⁵⁾。受験した学生によると、模擬授業は従来の15分間（入退室の時間も含む）から12分間になり、その後に模擬授業面接を25分間、併せて40分程度の試験を行っている。新型コロナウイルス感染対策のため、模擬授業中の机間指導は禁止になっているが、試験内容に模擬授業自体が復活しており、教員採用試験における模擬授業の重要性がうかがわれる。尤も、学校における教員の業務の大半を占めるのが授業であるため、教員採用試験において授業力が問われるのは当然であろう。

初等教育学科38期生がまとめた『顔晴り』冊子（写真1・2）⁶⁾、広島県人会・面接ファイル（写真3・4）⁷⁾には、学生が受験した自治体における模擬授業の試験に関する詳細が述べられている。これらの資料は、後輩の学生たちが学修する上で参考になるとともに、筆者ら本学の教員が学生を指導する上でも役立つことができる。



【写真1・2：令和2・3年度『顔晴り』冊子，令和3年度『顔晴り』の広島県・広島市模擬授業のページ】



【写真3・4：令和3年度「広島県人会・面接ファイル」，広島県・広島市模擬授業面接のページ】

その2つの資料から、教員採用試験において模擬授業及び模擬授業面接を行った自治体から最も受験者の多い広島県・広島市、広島県・広島市とは異なる実施方法で今年度の受験者があった島根県、北九州市を取り上げ、実施方法を比較する。筆者なりに簡潔にまとめると以下の表2になる。北九州市については、資料を参照しつつ筆者が加筆した⁸⁾。

自治体	広島県・広島市	島根県	北九州市
実施形態・方法	<p>【模擬授業面接】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導案作成（30分間） 模擬授業（12分間）：児童役の面接官は3人。机間指導は禁止。面接官は児童役を演じるが、その反応は様々である。 その後、模擬授業面接（25分間）を行う。 	<p>【模擬授業面接】</p> <ul style="list-style-type: none"> 構想（問題と鉛筆が机上に置いてある。2～3分間） 模擬授業（7分間）：机間指導は範囲を指定。面接官は反応しない（児童役はない）。 その後、面接（授業に関するもの、10分間）を行う。 	<p>【模擬授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 構想（指導案構想メモ、10分間） 模擬授業（5分間）：他の受験者6人が児童役を行う。児童は短く発言（返答）すること、教師役は板書をする事、児童を1～2回は指名し発言を求めることがルールである。試験官2人は反応しない。

【表2：令和4年度（令和3年度実施）教員採用試験における模擬授業の比較表】

自治体によって時間、児童役の有無、模擬授業後の面接の有無などは異なるが、おおよそ流れは似ている。授業の導入から始めて制限時間までで終了し、終結（終末）までは行わない点も共通している。ここでは詳しくは取り上げないが、模擬授業の導入・展開・終結までを15分間で行う自治体、一次試験の結果発表とともに合格者にテーマが知らされて、学習指導案など事前に準備して試験当日に持参することができる自治体もある。津金邦明は、主な模擬授業の流れを2タイプに分類している⁹⁾。津金の考えを元にしつつ、筆者なりにまとめると次の表3になる。前述した広島県・広島市の場合、指導案作成に30分間用意されており、児童役を試験官が行い、授業後に試験官との質疑応答があるため、Bタイプであると考えられる。

Aタイプ	Bタイプ
与えられた指導案（略案）に従って行うもの（20～30分程度）	目標や内容が与えられ、簡単な指導案（略案）を書いて行うもの（30～40分程度）
① 模擬授業の進め方について説明がある。 ② 指導案が配付され、内容を把握する。 ③ 模擬授業を行う。（児童生徒役を試験官や受験者が行う場合が多い） ④ 試験官等との質疑応答。（無い場合もある）	左記のAタイプにおいて指導案作成のため10分程度時間が与えられ行われる場合がある。

【表3：津金邦明による主な模擬授業の流れ】

次に、先述した3つの自治体の中から広島県・広島市の模擬授業における評価項目を筆者なりにまとめると以下の表4になる¹⁰⁾。専門性はもちろんだが、教師としての指導技術、振る舞いを重視していることがわかる。

自治体	広島県・広島市
主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒を引き付ける表情、動作ができるなど表現力が豊かである。 児童生徒に共感的、受容的な対応ができる。 児童生徒の考えを引き出す発問ができ、専門的な知識・技能など十分な指導力をもっている。

【表4：令和4年度（令和3年度実施）教員採用試験・模擬授業の評価項目】

佐谷力は「模擬授業は、学生であれば授業や教育実習での研究授業体験や、講師の人の場合は日々の授業の実践がベースになることは間違いありません。しかし、模擬授業は通常の授業より、演劇やパフォーマンスに近いものだと考えた方がよいでしょう。実際の授業においても「伝える」「ひきつける」という要素は重要で、演劇やパフォーマンスから学び取り入れられることは多いのです。」「あくまで、授業の「起承転結」の「起」の部分、よく進んで「承」の始めまでで精一杯です。あせらないで、自分が生徒と交流しながらどういう表情、動き、発言、かわりをするのかを、じっくり表現することに集中しましょう。」と述べている¹¹⁾。演技力・表現力が大切であるという佐谷の見解に、筆者も同意する。

2 筆者が担当した教員採用試験対策セミナーにおける模擬授業指導の実際

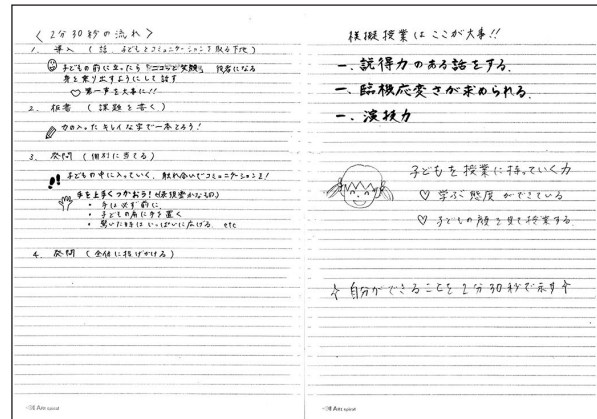
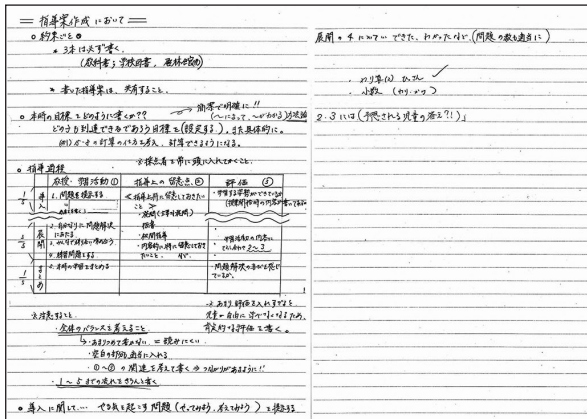
(1) 本学における教員採用試験に向けた取組

本学では、初等教育学科・教育学科を中心として、学生（セミナー委員や県人会など）からの要望に応える形で教員採用試験対策チャレンジセミナーを行っており、教職センターがその取りまとめを行っている。教員採用試験対策チャレンジセミナーは正規の授業ではなく、課外で行われる自由参加型のセミナーであり、学生の要望に応える形で本学教員によって開催されることを前提としており、学生の主体的な学びを支援するものである。本学では、略してセミナーとして学生・教職員から呼称される。実施する時期によって春期休業中セミナー、前期セミナー、二次試験対策セミナー、後期セミナーの4つに大別できる。教員採用試験・保育士採用試験の内容に準じており、各教科の学習指導要領・教育要領解説などの筆記試験対策、論作文、学習指導案作成、グループワーク、面接、模擬授業、音楽・体育・図画工作の実技対策など、多岐にわたる¹²⁾。

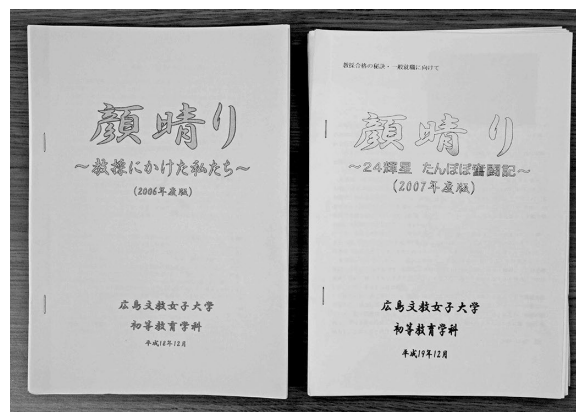
本学に着任した平成12（2000）年度から、筆者は図画工作セミナーの指導に携わっている（当時は人間文化学科所属）。模擬授業や集団討論などの二次対策セミナーには、初等教育学科23期生が4年生であった平成18（2006）年度から参加している。当時、初等教育学科の先生から筆者に連絡があり、それがきっかけで他の先生方に加わって模擬授業や集団討論、面接指導（面接指導は平成19（2007）年度から）などの二次対策セミナーに参加するようになった。筆者が参加するようになった平成18（2006）年度から数年間は、本学2号館6階262教室を主会場としていた。1つの教室で順次行う模擬授業に対して複数の教員が指導を行っていた。262教室背面のホワイトボードに模擬授業の日程・学生の順番を記述し、その表に基づいて複数教員によって模擬授業指導を行っていた（写真5）。模擬授業指導が終わった後は、集団討論や面接指導、ビデオ映像の鑑賞による模擬授業の振り返りなどが行われていた。筆者は、主に学生の模擬授業をビデオカメラで撮影しつつ指導内容のメモを取りながら指導をしていた。先輩の先生方による指導を間近で拝見し、筆者自身も学ぶ点が多くあった。その当時から、教員採用試験の取組をまとめた冊子が、それまでの『教採合格の秘訣』から『顔晴り』に改題した。

8/9(日)	8/10(火)	8/11(水)	8/12(木)	8/13(金)	8/14(土)	8/15(日)	8/16(月)	8/17(火)	8/18(水)	8/19(木)	8/20(金)	8/21(土)	8/22(日)	8/23(月)	8/24(火)	8/25(水)	8/26(木)	8/27(金)
⑥ 集団討論① (日)	⑥ 討論① (火)	⑦ 討論② (水)	⑦ 集団討論② (木)	⑦ 個人面接 ⑧ (金)	⑦ 音楽 (土)	自主勉強	⑧ 音楽 (月)	⑧ 音楽 (火)	⑧ 音楽 (水)	⑧ 面接 ⑨ (木)	⑧ 面接 ⑩ (金)	⑧ 面接 ⑪ (土)	⑧ 面接 ⑫ (日)	⑧ 面接 ⑬ (月)	⑧ 面接 ⑭ (火)	⑧ 面接 ⑮ (水)	⑧ 面接 ⑯ (木)	⑧ 面接 ⑰ (金)
4コマ目 音楽	4コマ目 音楽	4コマ目 音楽	4コマ目 音楽	4コマ目 音楽	4コマ目 音楽													

【写真5：平成22年度（2010年度）の模擬授業指導の様子・262教室（初等教育学科27期生）】



【写真6：指導案作成，模擬授業のポイントをまとめたメモ（先生方の指導をもとに学生が作成したもの）】



【写真7：平成18・19年度『顔晴り』冊子】

初等教育学科29期生が4年次であった平成24（2012）年度からは複数の教室をそれぞれ1人の教員が担当し，複数同時展開による模擬授業指導が開始された。以降，この方式が継続されていき，今日に至る。

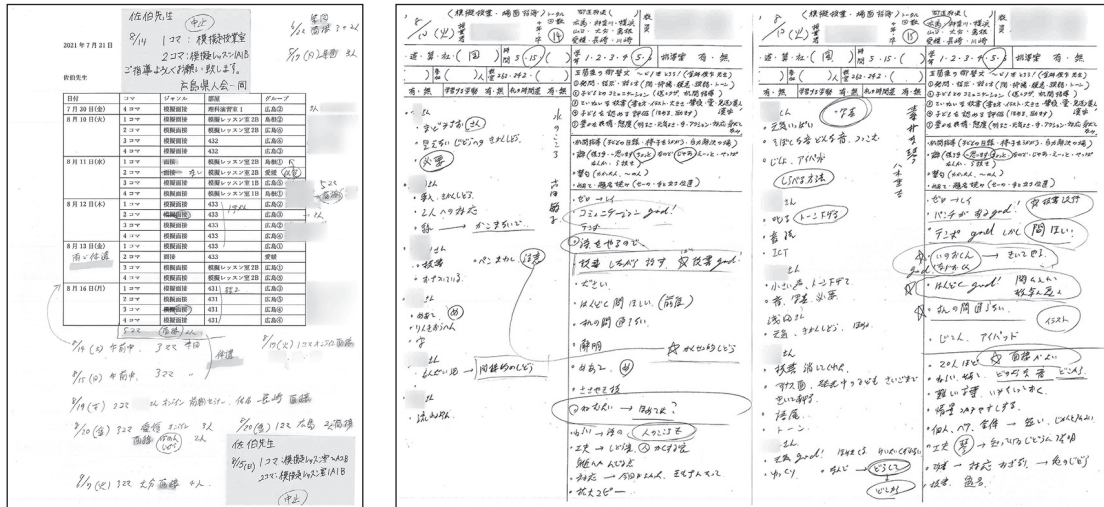
（2）筆者が担当した模擬授業指導の取組

今年度も，筆者は春期休業中セミナー，前期セミナー，二次試験対策セミナー，後期セミナーに携わった。春期休業中セミナー，前期セミナーでは図画工作セミナー（理論のみ，実技なし）を担当した。夏期に行われる二次試験対策セミナーでは面接指導，模擬授業指導（模擬授業面接も含む），場面指導を担当した。少ない回数ではあるが口頭試問の指導にも関わった。後期に行われた公立保育士試験対策では，集団討論やグループワーク指導，面接指導，実技指導（新型コロナウイルス感染拡大の影響などによる試験内容の変更によって実際の実技試験は不実施）を行った。

続いて，筆者が担当した模擬授業指導の実際について報告する。教員採用試験では，先述のように模擬授業を課す自治体が多く存在するため，本学のセミナーにおいても模擬授業対策を行っている。今年度も含む3年間で筆者が担当した模擬授業指導（場面指導も含む）の実施状況は，表5の通りである。令和3年度は，二次対策セミナーを中心にのべ40人（全40回）実施した。学生が作成した二次対策セミナーの一覧表をもとに指導を行った。一覧表にないものでも，学生からの要望があった場合は応えるようにしたが，悪天候の影響で中止になった日があるため，全体としては比較的少ない回数となっている。令和2年度は，新型コロナウイルス感染拡大の影響により，試験内容の変更があったため，最も少ない回数となっている。特に，受験学生の約56%が志望する広島県・広島市では通常二次試験で行われていた模擬授業が不実施となったことが大きく影響している。教員採用試験において模擬授業を実施した島根県対策（一次試験合格者8人）などを中心に模擬授業指導を行ったため，この数になっている。

年度	令和3（2021）年度	令和2（2020）年度	令和元（2019）年度
人数	のべ40人（回）	のべ21人（回）	のべ32人（回）

【表5：令和元年度から令和3年度までに筆者が担当した模擬授業指導の人数】



【写真8・9：学生が作成した二次対策一覧表、筆者が作成した模擬授業指導記録用紙（2人分）】

今年度の筆者は入室・退室も含めて学生1人につき約25分程度の模擬授業指導を行った。1コマ（90分）につき、3～4人の学生を指導することが多かった（写真10・11）。筆者の場合は、面接指導と同様に以下のような自分なりの方法を取る。

広島県・広島市のように模擬授業の学習指導案を事前に用意する自治体の場合、短時間で指導案に目を通す。短時間であるため、そこまで詳しく見ることはできないが、流れを確認する。写真9の自作の模擬授業指導記録用紙（A4サイズ、手書きのフォーマットをコピーした簡易なもの）にメモをしながら、筆者も児童役で参加しながら模擬授業指導を行う。例えば、挙手して発表したり、忘れ物をした様子を演じたりする。写真9のように筆者自身が児童役をしながらの走り書き・覚え書きであり、読みにくい点はご了承ください。模擬授業指導記録用紙の上方には、日付、学生の名前、回数、受験自治体、教科、時間、学習指導案の有無などを記入する。その下には、①発問・指示・話し方（間、抑揚、緩急、強弱、トーンなど）、②子どもとのコミュニケーション（机間指導、返し技、発言・発表を最後まで見る、など）、③丁寧な板書（書き方、イラスト、文字の大きさ、筆順、分量、見返り美人、正しい漢字、など）、④子どもを認める評価（褒める、励ます、など）、⑤豊かな表情・態度（明るさ、元気よさ、手の使い方、適度なアクション、対応の仕方、身だしなみ、など）という5項目（元本学初等教育学科長・金井俊彦による「五箇条の御誓文 ～で1本とろう！」）、その他、用語についてなど、詳しくは後述する）に加えて、⑥机間指導（子どもの目線、様子をうかがう、自力解決の場、など）、⑦癖（よくない例：後ろ手、～思います、ちょっと、なので、じゃあ、えーっと、やっぱ、なんか、ら抜き、など）、⑧禁句（よくない例：わかった人、～の人、など）、⑨めあて・題名読み（さんはい、立つ位置、など）の4項目の該当する箇所に○を記入する。右列は、筆者の気づき（よい点、改善点など）を模擬授業の流れに沿って記入していく。左列は、板書や児童役の学生による模擬授業後のコメントなどを端的に記録して、筆者からの助言に生かす。

終了後、おおよそ10分程度、一緒に参加した他の学生からの批評、筆者からの評価・助言などの振り返りを行う。それは、省察的実践家としての教師を目指して欲しいという筆者の思いがあるからである。筆者からは、まず学生の印象、よさを伝えた後、課題・改善点を述べ、助言、全体的評価を行う。その後、次の学生に交替するという一連の流れである。



【写真10・11：今年度・二次対策セミナーにおける模擬授業指導の様子（北九州市，広島県・広島市対策）】

模擬授業指導に際して，筆者が気を付けている点，心がけている姿勢は以下の通りである。面接指導と同様，査定ではなく評価する姿勢で行うことに留意している。今津孝次郎は，「評価」と「査定」は違うとして，以下のように区別している。今津の考えは，以下の表6の通りである¹³⁾。

	評価	査定
主体	他者（管理者・同僚・第三者），自分	他者（管理者・監査者）
客体との関係	双方向的関係	一方的関係
時間	過去から現在の時点までの変化を分析・考察し，先の目標を立てる	現在ないし一定時点
測定資料	量的（数値化），質的（非数値化）資料	量的（数値化）資料
測定方法	客観的テスト，記録・製作物・観察・面談などによる客体の内面的了解	テスト・書類審査・実地検査による客観的点検

【表6：今津孝次郎が区別する評価と査定】

教員採用試験における模擬授業の試験で行われるものが査定だとするならば，教員採用試験対策セミナーにおける模擬授業指導に必要なものは評価であろう。模擬授業指導後の振り返りの際，学生に対して断定的・査定的にコメントを伝えるのではなく，よいところは評価しつつ，更によくするにはどうしたらよいか他の参加学生とともに一緒に考えるようにしているつもりである。

津金邦明は，模擬授業における主となる評価項目を3つに分け，特に②管理力の評価に重点が置かれると述べている¹⁴⁾。各自治体による採用試験における模擬授業の試験も，ほぼ同様の評価項目であると考えられる。津金の考えを元にしつつ，筆者なりに表にすると次の表7になる。

評価項目の観点	具体的な内容
① 企画力	指導の目標と内容を的確につかみ，児童生徒の実態に合わせて，意欲的・主体的，効率的に学ぶことができる指導案を作成することができる力。
② 管理力	指導計画に沿って臨機応変に，児童生徒の学習を目標達成のためにコントロールすることができる能力。この能力は，以下のように細分化される。 <ul style="list-style-type: none"> • 話す力（児童生徒の実態や状況に応じて，興味を持たせて，分かりやすく話す力） • 聞く力（言語能力が未発達な児童生徒の発言を理解し活用する力） • 話し合いをコントロールする力（話し合いの方向性（収束させたり広げたりする）や児童生徒の関係性（他者の良い意見を取り入れ自分を高める等）などを制御する力） • 学習活動をコントロールする力（調査，作業，実験，実技等を効果的に指導する能力） • 生徒指導力（児童生徒の達成感や目的意識などを高める力，学習習慣を身に付けさせる力） • 時間管理（時間配分や時間内に終了する力）
③ 評価力	児童生徒に学習目的とした知識・理解・技能・意欲等が身に付いたかどうかを的確に評価し，児童生徒に伝え，次の学習へ生かす力。

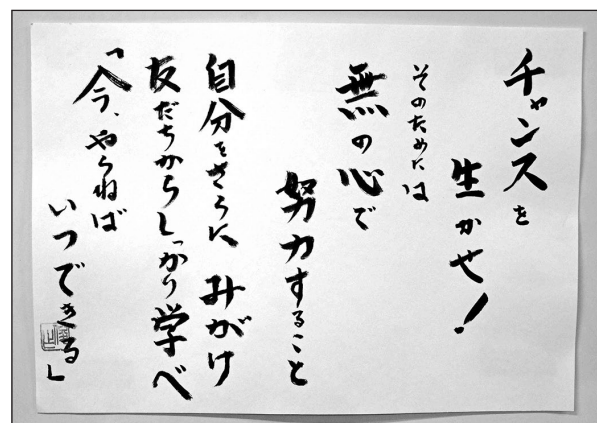
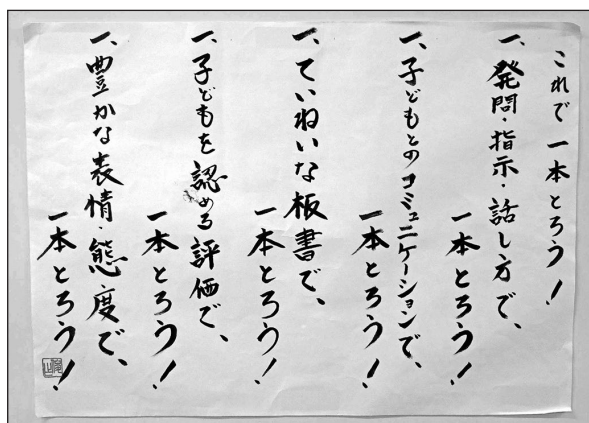
【表7：津金邦明による模擬授業の主となる評価項目】

これまで筆者が行ってきた模擬授業指導は、津金の観点の②管理力とほぼ同様であると考え。しかし、津金の学習活動をコントロールする力にあるように実際の調査、作業、実験、実技などを教員採用試験での模擬授業で行うことは難しいため、筆者は後述する項目を使って模擬授業指導を行っている。管理力というよりも、むしろ授業実践力というべきものであろう¹⁵⁾。換言すると、教師としての基本的な指導技術、振る舞いである。津金の観点にある①企画力は学習指導案によって評価できるが、③評価力については教員採用試験での模擬授業においては終結（終末）まで行わないことが多いため、判断は困難であると筆者は考える。

(3) 筆者が先生方から学んだ模擬授業指導の初歩的・基本的な項目

津金邦明の管理力に相当するものとして、筆者は以下の観点から教員採用試験対策の模擬授業指導を行っている。前述したように、平成18（2006）年度から参加した二次対策セミナーにおいて、他の先生方による指導を記録していた。元本学初等教育学科長・金舛俊作、前本学初等教育学科長・岡利道を筆頭に、二次対策セミナーに参加されていた先生方のコメントを筆者が記録しており、その模擬授業指導のポイントをまとめると以下ようになる。ここでは、事前に行われる学習指導案の作成については言及しないこととする。この資料は10年以上も使用してきたため、この中には筆者が加筆・修正したもの、学生たちから学んだものも混在している。基本的にどの自治体の模擬授業においても役立つ項目であると筆者は考えるが、学生が受験する自治体の試験方式によっては、そぐわない部分も中にはあるだろう。今後、補完が必要な項目、不完全な項目もあると考えられる。いずれにせよ、今後の模擬授業指導に少しでも役立てていただけると幸いである。筆者は、この資料を印刷してバインダーの左側に留めておき、右側に模擬授業指導記録に記入しながら模擬授業指導を行っている。今後は、教員採用試験対策以外の模擬授業指導にも使用するため、個人的に小冊子にすることを検討中である。

(通称) 五箇条の御誓文 ～これで1本とろう！



【写真12・13：二次対策セミナーにおいて使用されていた掲示物（元本学初等教育学科長・金舛俊作作成）】

●入室時・授業開始時のポイント

- 入室時①：試験会場入室時、試験官に受験番号を伝える際、受験番号0＝レイと言う。ゼロではいけない。ゼロは英語である。
- 入室時②：試験官の指示に従って模擬授業の内容（校種、教科・科目、単元名、想定学年、など）について説明をした後、試験官（参加している学生・教員）に「(手で示して)こちらからAさん、Bさん、Cさんとさせていただきます。」と伝える。名前が決まると指名しやすくなる。
- 授業開始時①：第一声は大きく、澁滞とした印象を心がける。その後、児童の学習する姿勢が整っているか確認する。例：「(教室全体を見回して)……はい。みんなと目が合いました。今日も気

持ちよく勉強することができますね。授業の4点セットは机の上に出ていますか？（4点セット＝教科書、ノート、筆箱、下敷き）」と確認する。もし、児童が忘れ物をしていた場合、該当児童から理由を聞いて注意を促した後、教師から予備を渡すようにする。安易に予備を渡したり、児童間で貸し借りさせたり、叱責して恥をかかせたりしないよう留意する。最後に「次は、……しましょうね。」と念を押しておく。

- 授業開始時②：忘れ物がなかった場合は、「今日は忘れ物がありませんね。素晴らしいです。」と言うよりは、「今日も忘れ物がありませんね。素晴らしいです。」と言う方がより肯定的でよい。他には「今日も黒板がきれいですね。今日の日直の〇さん、丁寧に消してくれましたね。」なども考えられる。支持的な気持ちを表明する。
- 授業開始時③：授業開始の号令をする際、児童が挨拶した様子を見届けて、一呼吸おいてから教師も「お願いします。」と述べて一礼する。児童の礼との間に時間差を設け、教師も礼をするとよい。
- 授業開始時④：授業開始時の一言「今日もいい授業が始めれそうです。」「気持ちよく授業がはじめれます。」は、いわゆる「ら抜き表現」であるため好ましくない。例えば「さすが〇年生（〇組）、今日も気持ちよく勉強できそうですね。」などと言うのがふさわしい。
- 授業開始時⑤：模擬授業の導入では、教材・資料に関わる範囲で、児童の興味・関心を引き付ける工夫があるとよい。例えば、教師の体験談、関連するエピソードなどを話すのも一つの方法であろう。

●めあて・題名読み

- めあて・題名読みをする際、「せーの」と言って行うのはふさわしくない。「さんはい」の方がめあて・題名が言いやすく、リズムをとりやすい。「せーの」は運動・体育系であり、複数の人が一緒に力を蓄えて何かをする時の動的な言葉かけ、「さんはい」は複数の人が一緒にテンポやリズムを取る時の静的な言葉かけと言われている。
- 板書しためあてを隠さないよう、手の出し方に注意する。児童に背を向けず、正面を向いた立ち位置で示すとよい。視界を妨げないよう留意する。
- 15分間の模擬授業の場合、開始時からおおよそ5分後くらいで、めあてまで到達すると理想的である。
- めあてを児童に書かせる際、ノート指導も同時に行うとよい。後で追記することがある場合、スペースを空けておくよう指示することも忘れないでおきたい。

●五箇条①：発問・指示・話し方で、一本とろう！

- 「発表してくれる人。」と言って発表を促すことは避けたい。「発表しましょう。」と言うか、場合によっては「誰か。」と静かに挙手するだけでもよい。「知っている人。教えてくれる人。わかる人。できた人。書けた人。」は禁句である。教師が学級の一部、できる人、わかる人しか相手にしないと児童に捉えられる場合がある。
- 「少し考えてみてください。」と言って思考を促すことは避けたい。児童が本当に少ししか考えなくなるからである。「〇分しっかり考えましょう。」「3分間時間を取ります。」などと伝えるとよい。
- 「作業に取り組んでください。」と活動を促すことは避けたい。「作業」には「労働」を想起させる場合がある。「問題を解きましょう。」「活動に取り組みましょう。」などと言う方がよい。
- 教師と児童とのやりとりが、一問一答式にならない方がよい。いわゆるピンポン型よりバレーボール型を目指したい。そこで、「返し技」を取り入れて児童の発言を学級全体に返して、発言をふくらませ、授業を豊かにしていく。「他のみんなはどうですか?」「〇〇さんはこう言っているけど、××君（みんな）はどう思う?」などと言う方がよい。
- みんなが既に知っていることは聞かない。例えば「このクラスの人数は何人でしょうか?」などは愚問である。

- 例えば「この詩を読んでみてどうですか？」などといった答えが出て来ない漠然とした発問は避けたい。「この詩を読んでみて、どのような絵が思い浮かびましたか？」などと言う方がよい。漠然とした発問だと答えにくい。思考の範囲を絞るか、何か例示するとよい。
- 難しい言葉を使わない。例えば「……をイメージできますか。」と言うよりは、「……を想像してください。」「……を思い浮かべてください。」などと言う方がよい。難しい言葉を使うと、教師が言い換える必要が出てくる。何回も言い換えると、児童は混乱する。
- **話し方のポイント5要素**（間・抑揚・強弱・緩急・トーン（明暗など））を大切にすること。
- 黒板を向いて板書しながら児童と話さない。児童の方（教室の左・中央・右・後・前）をしっかり向く。板書と児童との対話は、明確に分離させる。
- 口を大きくあけ、大きな声で話す。話す前に、しっかり息を吸い込むとよい。「ボソボソ……」ではなく、「はっきり・くっきり」を目指す。
- 早口にならないようにする。緊張すると、早口になる傾向がある。どうしても早口になる場合は、少しでも間を入れるとよい。
- 語尾が小さくならないように意識する。発言の最後まで聞き取れるようにする。
- 「背筋をピンと伸ばすとカッコイイよ」など小声でのささやき技も、時には必要である。名指しで大きな声で注意して、クラス全体の前で児童に恥をかかせないようにする。
- 「流し技」（「は・ひ・ふ・へ・ほ」が語頭の間投詞を使うこと）も、時には使いたい。児童の発言の内容によっては、例えば「へー。そんな考えもあるんですね。」などと一旦受け止めてから、おもむろに流すこともあってよい。授業の本筋から脱線させないために効果的である。
- 発問・指示をする時、「〇〇君は、……についてどう考えますか。」などと、先に児童の名前を言わない。名前を呼ばれた児童しか考えなくなるためである。
- 方言よりは標準語で話す方がよい（特に、教員採用試験においては）。

●五箇条②：子どもとのコミュニケーションで、一本とろう！

- 教師ばかりしゃべらない。子どもとのやりとりを存分に行う。一方的な授業にならないように注意する。
- 児童（児童役の実験官）に反応がなく、困った場合は「Dさんは、……についてどのような考えがありますか。」などと、実験官以外の架空の児童を使うことがあってもよい。ただし、多用しない方がよい。
- 児童（実験官）の名前を呼ぶ時、「A君」「Bさん」でもよいが、架空の名前でもよいから、名字を呼ぶとよい。気持ちがかもり、臨場感が出る。ゼミの仲間、本学の教員、教育実習における配属学級の児童名でもよい。模擬授業中どうしても思いつかなかったら、自分の名字でもよい（同じ名字の児童も中にはいるため）。
- 模擬授業中、目線は「キョロキョロ」と泳ぐのではなく、「しっとり・ねっとり」を意識する。落ち着きなく動かさないようにする。座っている実験官だけでなく、クラス全体を見る。どの児童にも目線を送るつもりで、児童に目を合わせるとよい。
- 教卓・教壇から離れ、児童の中に入っていくとよい。横だけでなく、縦の動きも生かしてコミュニケーションを取っていく。

●五箇条③：ていねいな板書で、一本とろう！

- 右利きの場合、左手は黒板の粉受けに添えると安定する。一行をまっすぐに書くことができる。縦書きの文章は中心線を揃えるよう意識する。横書きの文章は下線に揃えるよう意識する。黒板の表面に手を置かない。手形が残るからである。なるべく片手に学習指導案などの資料を持たない。教卓の上に置き、時々見るとよい。現職教師になり、経験を重ねると半身になって児童の方を向

いて板書することも可能になってくる。

- 板書は、文字だけだと単調になる。イラストは、子どもを板書に注目させる上でも効果的である。イラストが得意な人は、アピールにもなる。イラストは、大き過ぎてはいけない。あくまでもワンポイントで使用する。教科書・資料の挿絵と大きくかけ離れてはいけない。しかし、教科書・資料の挿絵には出てこない独自のキャラクターを作るのもよい（例：そうすけ君（写真14））。よく使うイラストは、練習しておくといよい。
- 対象学年によって板書時における文字の大きさを使い分ける。板書時の文字の大きさについては、様々な見解がある。例えば、低学年で10cm四方、中学年で8cm四方、高学年で6cm四方が適しているという見解がある。低学年は文字サイズが大き目で書く量は少な目、高学年は文字サイズが小さ目で書く量は多目という点では共通している。
- 黒板を向いて板書しながら、児童と対話しない。児童に背を向けて対話しない。
- 板書し過ぎててもよくない。ポイントを絞って板書する。板書は適量がよい。
- 整理して板書する。一通り発言させてから、いくつかのカテゴリーにまとめて板書するとよい。
- 板書は頻繁に消さない方がよい。書き間違えた場合、手や指で消さない。児童に間違いを指摘された場合、「〇さん、よく気が付きましたね。」などと言って評価するとよい。
- 筆順①：□（四角で囲う場合）は、口の筆順で描く。定規があれば使うとよい。枠内に文字を書きやすいよう、少し広めに書くとよい。
- 筆順②：間違いそうな漢字の字形・筆順（例：右、左、出、気、通、版、必、飛、葉、感、量、俳……など）は確認しておくといよい。「トメ・ハネ・ハライ」も意識する。
- 筆順③：読点、「ぱびぶべぼ」の半濁点は、0（レイ）とは逆の書き順（下から時計回り）である。
- 筆順④：間違いそうなひらがなの筆順（例：も、や、よ……など）も確認しておくといよい。
- 難しそうな字形（例：ン、を、ふ、そ……など）は練習しておくといよい。
- 漢字と学年との関係には留意する。学年別漢字学年配当表を事前に確認しておくといよい。学年配当がわからない時、気になる時は、その漢字にルビを付すとよい。
- 下線を引く時、文字と重ならないように丁寧に引く。
- 写真などの架空の掲示物を使用してもよい。その際、代わりに□、「」を板書する。しかし、すべて掲示物にするのはよくない。板書と併用する。掲示物に用意していない発言が児童からなされた場合、板書して追加するとよい。
- 正しいチョークの持ち方（鉛筆持ちではなく、人差し指に添える。他には人差し指と中指、親指でつまむようにしてチョーク先端を持つ方法もある¹⁶⁾）で、打ち込みや止めなどを意識して書く（写真15）。軽く「スースー」というよりは「ピシッ、ピシッ」ととめ、適度に力を込める。
- 見えやすいように、太くて濃い字を心がける。適度に筆圧をかける。
- 書く時の音も意識する。心地よい音が鳴るとよい。
- 消し方も重要である。縦書きは縦に消す。横書きは横に消す。黒板消しの角を使って消すとよい。
- 使用するチョークの色は、白・黄色くらいがよい（使用する色数にも様々な見解がある）。場合にもよるが、赤・青・緑などは見えにくいので避けるとよい。
- 改行には注意する。特に縦書きの場合は、手紙と同様に中途半端な部分で改行しない。
- 題名やめあて、問題文などの板書の途中、振り返って児童の様子をうかがう。特に、板書の量が多い時に途中で使用するると効果的である。この所作を通称「見返り美人」と言う。2009年8月6日の二次対策セミナーにおいて、初等教育学科26期生N学生の所作に対して、評したことから始まる。振り返った時に、「みんな静かにしっかり書くことができますね。」などと評価するとさらによい。
- 手についたチョークの粉は、あからさまに払わない。手をパンパン叩かない。児童（試験官）に気付かれない範囲で、さりげなく粉を落とす。黒板の粉受けにチョークを置く時も、音を立てずに静かに置く。



【写真14・15：板書でのイラストの例（学生独自のキャラクター）、正しいチョークの持ち方一例】

●五箇条④：子どもを認める評価で、一本とろう！

- 児童のいいところを褒めて評価する（肯定的評価）。例えば、「大きな声で読めました。」「前と比べると、随分書くのが早くなったよね。」「さすが〇年生ですね。」「いいところに気付きましたね。」と評価する。児童を認める評価は、授業の活性剤、潤滑油となる。
- 児童が発言・発表した後、最後まで聞き、しっかり受け止める。頷きも入れつつ、児童の言葉を最後までしっかり聞く。板書する場合も、児童の方を向いてしっかり聞いて、評価してから板書する。児童が発言し終わっていないのに、すぐ板書に向かわない。
- 児童が質問した時も、しっかり受け止める。質問したこと自体も褒めて肯定的に評価する。「いい質問をしたね。みんなも〇〇君のように、わからないことがあったら、質問しましょうね。今日勉強したら、このことがわかるのですよ。」などと言うと他の児童のためにもよい。
- 別の誰かを褒めることで、児童に注意を促す間接的な指導法も使うとよい。通称、間接技、変化球とも言う。例えば「〇〇さん、姿勢がとってもいいですね。」「〇〇さん、先生の話をしっかり聞いてくれていますね。」と評価することによって、別の児童に注意喚起する。あるいは「今日はどうしたのかなあ。いつもの〇〇さんらしくないなあ。」などと自尊心を傷付けずに注意する。

●五箇条⑤：豊かな表情・態度で、一本とろう！

- 基本は、明るく、元気よく振る舞う。勢いが必要である。
- 共感的・受容的な態度が必要である。例えば、優しい笑顔、児童が安心できるほほえみが必要である。抽象的ではあるが、包み込むような雰囲気、好感の持てる印象、発言しやすい空気を出すとよい。
- 手の表情、身体の表情もあるとよい。アクションは適度に大きく、オーバーにするとよい（ただオーバー過ぎてはよくない）。
- 動作は機敏に、メリハリをつけるとよい。緩慢な動きは避けたいが、黒板の前で小走りは避けたい。
- 髪の毛の乱れは避けたい。特に受験時はピンで留める。身だしなみには留意する。
- 優しさ・厳しさのバランスが大切である。例えば、鉛筆を削り忘れた児童への対応だと、あっさり予備を渡さず、こういう時はどうしたらいいか、次はどうしたらいいか考えさせて児童に渡すとよい。
- 気になる発言をした児童への対応も必要である。聞き逃さず、「今の言葉はいいのですか？」と児童に伝えて指導するとよい。
- お腹が痛くなった児童への対応も大切である。保健室には、1人では行かせない。必ず、保健係の児童に連れて行かせる。1人で行かせた場合、途中で何が起こるか分からないからである。
- 忘れ物をした児童がいたら、頭ごなしに叱らない。「こんな時、どうしたらいい。」と児童自身に改善策を考えさせる。その後、「今度から気をつけようね。」「今後気をつけましょう。」「お約束が

守れるか、楽しみにしていますね。」と教師から伝えるとよい。

- 困ったことを言う児童への対応は、ユーモアも交えて流すとよい。例えば「面白いことを言うね。」「先生見た事ないけどな。」「……で考えてくれないかなあ。」などと伝える。

●机間指導（机間巡視）

- 児童の目線に下がって指導する。寝技とも言う。特に背が高い人は、立ったままだと座っている児童には威圧感が感じられるので低い位置での指導を取り入れるとよい。
- 場合によっては、児童の肩を軽くポンと叩いてもよい。
- 机間指導は、ただ漠然と教室を散歩しているのではない。児童の様子をうかがうことが目的である。課題の達成度やノートを確認したり、児童への励ましを行ったりするものである。意図的指名によって発表させる前に、児童に目星をつけておくための方策でもある。
- 進み具合のよい児童とだけ話さない。悩んでいる児童、躓いている児童を支援する必要がある。課題が解決できた児童には、別の方法を考えさせるとよい。
- 二次試験等の模擬授業では時間が限られているので、基本的に3回行うべき机間指導（個別指導）は1回でよい。授業中に行う机間指導の1回目は、指示通りに進めているかの確認と個別指導すべき児童の把握を目的とする。2回目は、個別指導を行う。3回目は次の活動のための情報収集を目的とする。例えば、誰と誰の意見を取り上げればねらいに迫ることができるかなどを探る。時間的に3回が難しい時は、上記のことを少ない回数で行う。時間設定は、同様の活動を繰り返す度に少しずつ短くすると児童の目標時間になる。活動は、7割程度の児童が終了した時点で区切り、完了できていない児童にはどう補うか指示する。途中で遅れている児童には、工夫を指示する。例えば、色塗りをしている活動の場合には色鉛筆で斜線を引いておき、後で塗り潰してはどうかと提案する。
- 特に算数などは、児童1人で考える時間（自力解決の場合）を与えるとよい。その場合「3分間時間をとります。まずは1人で考えましょう。」と伝えて机間指導を行い、「3分経ったこととします。」と一部省略してもよい。試験官に対する模擬授業の見せ場の一つにもなる。
- さらに見せ場をつくるためにも、架空の児童を指導してもよい。例えば、躓いている児童にしゃがんで座席の後方からヒントを与えるなど、1人で演じてもよい。
- 試験官以外の座席にも児童が座っていると思って机間指導を行う。児童が座っているであろう、机の間を通らないように意識する。

●癖・口癖・禁句

- 後ろで手を組む。これは休めの姿勢であり、児童に対して一歩引いているように見える。児童は教師との間に距離を感じる。手はなるべく前へ、児童の方へ出すとよい。
- 禁句①：「～思います。」「～いこうと思います。」「～していてもらおうと思います。」などは曖昧な表現である。語尾で言い淀むと、自信がなさそうに見える。「～します。」「～しましょう。」と言い切るとよい。
- 禁句②：「えーっと。」「えー。」「やっぱ。」「なんか。」「やばい。」などの言葉は避けたい。
- 禁句③：「ちょっと」を多用するのは避けたい（ちょっと症候群）。素直な児童は、額面通り「少し」の意味として受け取る。「それではちょっと練習してみましよう。」と言った際、児童は本当に少ししか練習しないことがある（筆者の教育実習時の実体験である）。
- 禁句④：「なので」は避けたい。本来、文・言葉の先頭に来るのはおかしい。「～なので、……である。」ならば正しい。
- 禁句⑤：「じゃあ」は避けたい。「それでは。」「では。」ならば正しい。ただし、「それでは。」をあまりに多用すると授業展開が目まぐるしく感じられる。

- 禁句⑥:いわゆる「ら抜き表現」は避けたい。例えば「はじめれます。」「まとめれます。」「出れます。」などは避けたい。

●音読・範読

- ゆっくり感情を込めて教材・資料を読む。
- 教材・資料が長い場合は、重要な部分以外を省略してもよい。
- 読み始める前の間と読み終わった後の余韻が必要である。教材・資料に入りやすく、授業の続きに戻りやすくなるためである。
- 教材・資料を読み終わった時点（余韻も含む）で、教卓に戻ると次の授業展開に繋がりやすい。
- 子どもの様子も時々うかがいながら、歩いて音読する。時々、声を出さずにさりげなく手などで姿勢の指導をするとよい。
- 教材・資料を読む前に、読む姿勢の指導も入れるとよい。例えば「足ピタ、せなピン」などである。
- 一文字一文字、丁寧に読む。教材・資料を読み間違えないようにする。自分で改編しないように留意する。
- 地の文章と、台詞とは変化を付ける。声色も適度に使うと効果的である。

●授業終了後・退室

- 模擬授業終了後、「ありがとうございました。」と大きく挨拶する。自信を持ってやりきった感じを出す。授業後の笑顔で、試験官に強く印象付けて終了する。
- 板書を消すことも忘れないようにする。前述した消し方で、きれいに消す。
- 試験室退室後も、ほっとして息を抜かない。安心して姿勢が急に崩れないように意識する。試験場を離れるまでは、誰かに見られている意識を常に持つておく。

3 模擬授業指導の留意点と意義

これまで述べてきた先生方から学んだ模擬授業指導の初歩的・基本的な項目をもとに、実際の模擬授業指導を行う際の留意点と意義について言及する。筆者なりに考察した結果を、以下にまとめた。

(1) 模擬授業指導の留意点

留意点としては、各項目で重複するポイントがあることである。複数の項目に跨るほど重要なポイントであるという証左であろう。他には、自治体によって禁止となっている事項もあることが挙げられる。

- 場合によっては、児童の肩を軽くポンと叩いてもよい。

例えば、机間指導（机間巡視）などは新型コロナウイルス感染拡大の影響によって禁止となった自治体（広島県・広島市など）もあるため、試験官の指示に従って模擬授業を行う必要がある。上記のポイントも、児童との接触を避けるべき状況下ではふさわしくないと考えられる。

- 児童（試験官）の名前を呼ぶ時、「A君」「Bさん」でもよいが、架空の名前でもよいから、名字を呼ぶとよい。気持ちがこもり、臨場感が出てくる。ゼミの仲間、本学の教員、教育実習における配属学級の児童名でもよい。模擬授業中どうしても思いつかなかったら、自分の名字でもよい（同じ名字の児童も中にはいるため）。

近年では、入室時に試験官（参加している学生・教員）に「(手で示して)こちらからAさん、Bさん、Cさんとさせていただきます。」と伝えることがおおそ通例となっているため、上記の項目は適していないと考えられる(広島県・広島市など)。試験官も、急に名字を言われたら戸惑うこともあるだろう。架空の児童を使う場合、もしくは試験官が児童役として参加しない場合に、具体的な名字を使うと臨場感が増すのでよいのではないだろうか。

以上、様々なポイントを示したが、学生の模擬授業が画一化し、没個性になってはいけないことも留意点として挙げられる。例えば、授業開始時に「授業の4点セットは机の上に出ていますか?」と言う学生ばかりだと本学は画一的な指導をしているのではないかと試験官に誤解されかねない。学生自身の個性やアイデアを活かす方向で模擬授業指導に当たりたいと筆者は考える。先述した板書におけるイラストの活用なども学生の個性を生かす方法の1つであろう。

模擬授業指導をしていると、演技力・表現力が弱い学生も出てくる。その場合、次々と新しい学習指導案を作成するよりも、今ある手持ちの学習指導案で演技力・表現力に重点を置いて、何回か同じ模擬授業を繰り返し行くとよい。学習指導案作成に注力するよりも、演技力・表現力そのものを強化する方が、弱点を克服して学生に自信を持たせることができるため、効果的である。筆者が、先生方の指導を拝見していて学んだことの1つである。勿論、教員に見てもらう機会以前の個人練習、仲間との練習も学生たちには必要であろう。

(2) 模擬授業指導の意義

意義としては、模擬授業指導を通して、学生の教師としての資質能力の向上の現場に立ち会うことの手応えが挙げられる。普段の授業、教育実習、ボランティア活動などを通して、学生たちは日々成長しており、模擬授業指導においてその様子をうかがい知ることができる。同業者、同じ教育者である大学教員としての自己の問い直しの機会にもなり、結果として筆者の大学教員としての資質能力の向上にも資するのではないだろうか。模擬授業指導後の振り返りにおいても、筆者からの評価を待つのではなく、まずは学生同士で評価し合うことで、お互いに批評し合う感覚が育つようになる。学生同士だけでなく、その後筆者も評価することによって大学教員としての感覚も育つものと考えられる。以上のことから、学生と教員、相互にとって意義があると筆者は考えている。しかも、授業外の取組であること、その負担を超えた大きな利点であると考えられる。

おわりに ~展望と課題

以上、本学4年生を対象とした教員採用試験対策チャレンジセミナーの一環で行っている模擬授業指導に焦点を当てて言及した。特に、筆者が本学の先生方から直接的に学んできた模擬授業指導の実際、特に模擬授業における学生の小学校教師としての初歩的・基本的な指導技術、振る舞いのポイントを示した。今後の教員採用試験対策チャレンジセミナーを中心とした模擬授業指導に少しでも役立てることができればと筆者は考えている。まだ不十分な項目もあると考えるため、追加や修正を重ねてよりよいものに改訂していきたい。例えば、模擬授業指導における児童役のあり方について検討してもよいだろう。かつて同一教室において複数の教員が児童役として参加・指導していた際には、「模範的な児童」「一般的な児童」「支援が必要な児童」などと役割分担をしたこともあった。学生が受験する自治体の傾向によって児童役を演じ分ける必要があるだろう。

面接指導と同様、模擬授業指導においても、個々の学生の実態・学びの履歴を踏まえた対応を意識することが大切である。「教科の学び(各教科)」「(各教科)教育法」「教材の研究と開発(各教科)」「(各教科)教育法演習」は勿論、特に教育実習や体験活動(「児童の理解(観察実習)」「学校教育の体験

活動（観察・参加実習）」「教育実習Ⅰ（模擬授業）、教育実習Ⅱ・Ⅲ（本実習）などでの指導の成果と課題を踏まえた継続的・発展的・段階的な指導を、模擬授業指導においても意識する必要がある。教員採用試験後は、学校現場に出ていく直前の4年次後期「教職実践演習」における模擬授業を通して、総仕上げを行うという一連の流れである。教員採用試験対策セミナーにおける模擬授業指導を通して、「教職実践演習」に繋ぐための授業実践力のレディネスを整えているとも捉えられる。本学の教員が本学の学生に模擬授業指導をすることによって、連続性・一貫性のある指導や助言が可能になる。学校現場における経験年数は多くはないものの、筆者は現場経験者の1人である。模擬授業指導においても、前述した初歩的・基本的な項目を踏まえることによって、現場経験を問わずどの教員も担当することが望ましいと筆者は考えている。ただ、筆者自身すべての項目を十分に会得しているとは言い難いので、模擬授業指導を通して今後も学生とともに学び続けていく所存である。

無論、教員採用試験合格が全てだという近視眼的な位置付けをすることは、教職課程教育が持つ社会的な責任を果たすことにはならない。合格後、授業実践力の基礎が着実に身につけている学生を送り出すことを共通合意としながら展開していくべき教員採用試験対策セミナーであり、その中の模擬授業指導であることを最後に付記しておく。

註、引用・参考文献

- 1) 佐伯育郎「養成段階の教師教育における面接指導についての一考察 ～本学の教員が本学の学生に対して面接指導をする意義～」（『広島文教女子大学 教職センター年報 2021年第9号』広島文教女子大学教職センター、2021年、pp.1-18）
- 2) 佐伯育郎・徳本達夫「教育実習指導の現状と課題 ～教科専門（図画工作）・教職専門（教育史等）の観点から～」（『広島文教女子大学 教職センター年報 2013年創刊号』広島文教女子大学教職センター、2013年、pp.35-50）、佐伯育郎・徳本達夫「教育実習指導の現状と課題（Ⅱ）～教育実習Ⅰを中心に～」（『広島文教女子大学 教職センター年報 2014年第2号』広島文教女子大学教職センター、2014年、pp.11-24）、佐伯育郎・徳本達夫「教師教育における模擬授業指導の現状と課題（Ⅰ）」（『広島文教女子大学 教職センター年報 2016年第4号』広島文教女子大学教職センター、2016年、pp.21-40）、徳本達夫・佐伯育郎「教師教育における模擬授業指導の現状と課題（Ⅱ）」（『広島文教女子大学 教職センター年報 2016年第4号』広島文教女子大学教職センター、2016年、pp.41-52）、佐伯育郎「図工授業力の育成を目指した模擬授業指導 ～平成30年度「図画工作科教育法」と「教育実習Ⅰ」の段階性・連続性を目指して～」（『広島文教女子大学 教職センター年報 2019年第7号』広島文教女子大学教職センター、2019年、pp.1-15）
- 3) 文部科学省ホームページ「令和2年度教師の採用等の改善に係る取組事例全体版」を参照しつつ、筆者なりに表にまとめた。
https://www.mext.go.jp/content/20200722-mxt_kyoikujinzai01-000008797-1.pdf（2022年1月10日閲覧）
- 4) 広島市ホームページ「令和3年度広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験の変更について」（<http://city.hiroshima.lg.jp>）2020年5月29日において、試験内容の変更に関する発表があった。（2021年1月20日閲覧）
- 5) 広島県ホームページ「令和4年度広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験変更点」<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/432316.pdf>（2022年1月10日閲覧）
- 6) 『第38期生 顔晴り』広島文教大学 初等教育学科、2021年。
- 7) 「広島県人会・面接ファイル」広島文教大学 初等教育学科、2021年。令和3年に受験した広島県人会の学生が作成したものであり、本学1号館1階の教職資料室に配架されている。
- 8) 北九州市 教員情報 専用サイト「令和4年度北九州市公立学校教員採用候補者選考試験における 模擬授業・集団討議について」<https://www.kita9.ed.jp/kyoushokuin-c/r4nizimogizyugyounado.pdf>（2022年1月10日閲覧）
- 9) 津金邦明『教育ジャーナル選書 教員採用試験 面接突破101事例 2021』株式会社 学研プラス、2020年、P139。
- 10) 広島県ホームページ「令和4年度 広島県・広島市公立学校教員採用候補者選考試験実施要項」<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/432098.pdf>（2022年1月10日閲覧）
- 11) 常磐会学園大学教職教育研究会 編『2019年版 教員採用試験シリーズ 論作文と面接・模擬授業 教員採用試験のための』大阪教育図書、2018年、pp.144-145。佐谷力は、模擬授業の心得として「とどく声（教室中に届き、明るく響く声で話し始める）笑顔忘れず（もちろん、子どもたちが安心できる柔らかい表情で）顔を見て（話の中で間をとり、子ども一人ひとりの理解を確認する視線を送り）わかる言葉で（子どもの学年に応じた理解できる言葉を使い、身振り手振りも入れ）やりとりがある（問いかけ、子どもの発言、ほめる言葉の応答も取り入れて）」と述べている（pp.147-148）。

- 12) 佐伯育郎「養成段階の教師教育における面接指導についての一考察 ～本学の教員が本学の学生に対して面接指導をする意義～」(『広島文教女子大学 教職センター年報 2021年第9号』広島文教女子大学教職センター, 2021年, pp.4-5)において, 本学の取組の特徴についても述べている。
- 13) 今津孝次郎『教師が育つ条件』株式会社 岩波書店, 2012年, p.173。
- 14) 津金邦明『教育ジャーナル選書 教員採用試験 面接突破101事例 2021』株式会社 学研プラス, 2020年, pp.139-141。
- 15) 図画工作科・美術科が専門である筆者は, 図画工作科の授業を実践するために必要な資質・能力を図工授業力と定義している。図工授業力は, 表8のように図工的教養(能力)と授業実践力(資質)の2側面から成り立っていると考える。図工的教養と授業実践力を兼ね備えた教師を「図工授業力のある教師」として自分なりに定義し, 4年間の授業を通してその育成を構想・実践している。教員採用試験における模擬授業では, 主に授業実践力に相当する力を査定するものと考えられる。

【表8：筆者が構想する図工授業力】

図工授業力	
図工的教養	授業実践力
教科に関する専門性	教育に関する専門性
能力	資質
図画工作科・アートとデザインに関する知識・技術, 教材研究・題材開発する力	コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力, 児童を支援・指導する力

- 16) 野口芳宏『2021年度版 教員採用試験 a シリーズ 模擬授業・場面指導』一ツ橋書店, 2020年, p.42。

謝辞：教員採用試験対策セミナーの模擬授業指導に携わるようになった当初, 金舛俊乍先生, 岡利道先生, 徳本達夫先生と同席して, 学生の指導をさせていただきました。二次対策セミナーへの参加のきっかけを作ってくださった村上典章先生とご一緒することも多くありました。先生方から直接的に学んだことは非常に多く, 筆者は心より感謝をしております。誠にありがとうございました。